

## 金毘羅安全祈願祭

安全・安心・平和な海上の職場環境に向けて

### 海運・水産産業は国民生活を支える基幹産業

晴天に恵まれた 5 月 18 日、九州関門地方支部の屋上に祀られている「金毘羅宮」で金毘羅安全祈願祭が厳粛に執り行われ、全日本海員組合の政治参与、海事関係者、行政機関、関係各社、全国海友婦人会、海員組合職員 OB 会など総勢 52 人が参列した。

関門海峡を見渡せる屋上を会場にした安全祈願祭開催にあたり、主催者を代表して浅野忠行九州関門地方支部長が「海運・水産産業は、日本経済を維持し、国民生活を支える極めて重要な基幹産業である。海を職場とするわれわれにとって、海は安全・安心・平和でなければならないが、世界的に見ればホルムズ海峡の事実上の閉鎖、ロシアによるウクライナ侵攻など、不安定な状況にある。本組合としては、日本関係船舶と乗組員の安全確保に向け、関係各所との連携を密に、将来の担い手確保に影響を及ぼしかねない重要課題であることから安全・安心・平和な職場環境の維持に向けた諸活動にまい進したい」とあいさつした。

その後、金毘羅宮宮司にご祈祷を賜り、参列者の代表者が順に玉串奉奠を行い、最後は参列者全員で航行安全ならびに海運業界のさらなる発展を祈願し、金毘羅安全祈願祭は滞りなく終了した。

「海員だより」